



## 「心の目を開く」

常務理事 石倉 智史

るうてるホームの玄関にあるステンドグラスは、現在の建物を建築するときに私たちるうてるホームの「理念」を象徴するものとして飾りました。モチーフになっているのは、「洗足のイエス」です。

普段はあまり意識することはありませんが、新しい職員が与えられるたびにこのステンドグラスをなぜ設置したかのお話をさせていただいています。また理念の中には「仕える」という言葉も入っていますので、イエス様の十字架の物語とともにその言葉の意味について、私なりに伝えようと努力をしていますが、毎回原稿とにらめっこをしながら頭を悩ませています。

日本人にはなじみの深い「(悪いことから)足を洗う」ということを対比させながら、自ら身を清めることとは違う、主であるイエス様が弟子たちの足を洗うことで、僕としての姿、つまり「仕える」とはどういうことかというその姿勢(心)を示しているということや、目に見える形の汚れを落とすことではなく、それぞれの心の中にある「汚れ」つまり、人間が持っている欲望、憎しみ、妬み、自己中心的な考えなどの罪と呼ばれるものをお互いに清め合い、互いに赦し合うことの大切さを示しているということを伝えたいのですが、はたして聞いている方にどれだけ届いているのでしょうか。

るうてるホームには「支えられつつ、支えて」という言葉も同時に語り継がれています。

それは心が震えるほどの苦しみや悲しみに共感し、その痛みが心が動かされるのは、弱さを知っている人。つまり痛み、苦しみ、寂しさ、悔しさ、憤りを知っている人たちにより生まれてきた言葉であると思います。そしてその上で「寄り添いを必要としている人の隣人にあなたがなる」という行動がともなって歴史が紡がれてきました。

イエス様自身も弟子たちの心の中に次々と起こっていることを深く知っていたからこそ、このような行動に出られたと思います。

私たちはいくら表面上でうまく繕っていても、弱さを認めたり、自分を低くすることはなかなかできません。実際の目は開いていても、心の目は閉ざされているのだと思います。

こうして新しい職員を迎えるたびに、新しい出会いに感謝をしています。様々な方が職員として加わって下さいます。高校生、大学生のみならず、同業者や一般企業からの転職、障害のある方、様々な理由により就職が叶わなかった方など、出会いは対話を生み、関わりが生まれます。関わりの中から、互いに清め合い、赦し合いながら、心の目が開かれることを願っていききたいものです。

それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくだ

さる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるため

です。栄光と支配が世々限りなくキリストにありますように。アーメン。(第1ペテロ4:10,11)

## 「生きた言葉を届けたい —ひとつの出会いから—」

「先生、わたしたちはね、この礼拝で、み言葉を戴くことで生きているんです。だから、どうか〈今〉示された神さまのメッセージを存分に、大胆に語ってください。語り続けてください。それがわたしの、わたしたちの心からの願いであり、祈りです。」

昨年の11月、ホームでの主日礼拝を終えた直後に、お一人の方から頂いた言葉です。わたしにとって、忘れ得ぬ宝のような言葉となりました。その方は、「ほかの何ものでもない。神の言葉によってわたしは生きている」。そうハッキリおっしゃったのです。ご自身の信仰告白と言うべき事態を前に、わたしは襟を正されました。

今は帰天されているその方は、礼拝が終わるとわたしの説教原稿を握りしめ、礼拝参加が叶わない友のところへ赴いては、それを語り直し、伝えておられたと聞いています。その方ご自身も、皆さまお一人おひとりも、〈言葉の重み〉というものが、身に沁みておられるのだと思われました。わ

天王寺教会牧師 神 崎 伸  
わたしたちのからだを食べ物によってつくられていくように、わたしたちの心が言葉によってつくられていくことを。〈わたしたちがどのような言葉を聴き続けているか〉が、わたしたちの人生に決定的な役割を果たすことを！

2年前にチャプレン団の一員としてお役をいただいて以来、ほぼ2ヶ月に一度、京都の賀茂川教会からホームへ通っております。この4月からは大阪の天王寺教会に着任しましたので、毎月一度はご一緒に礼拝に与ることになると存じます。天王寺教会の仲間が皆さまと過ごしておられますし、水曜日の聖書研究も前任牧師から引き継ぎますので、皆さまとはこれまで以上にお会いする機会が増えることであらうでしょう。どうか、親しくお交わりを頂けますように。

これまでの出会いに感謝し、これからの出会いに期待しつつ、ご挨拶とさせていただきます。万感の想いをこめて、「どうぞよろしくお願い致します！」

## 「はじめまして」

この4月から下関・厚狭・宇部教会より西宮教会、大阪教会協力牧師としての働きを与えられ、関西地区に参りました竹田大地（たけだたいち）と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、「悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みを与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。」とエフェソ

西宮教会牧師 竹 田 大 地  
の信徒への手紙4章29節に記されています。パウロがキリスト者として歩むうえでこうありなさいという勧めをしている言葉です。

牧師の務めの最も大切な働きは、み言葉の取り次ぎ、すなわち説教だと考えています。この思いは、7年前新任牧師として遣わされるときから心の内に煌々と輝き続けている思いです。その基は、敬愛する牧師

よりいただいた手紙に「み言葉に生きてください」という言葉をいただいたことによります。その言葉をずっと心に刻みながら牧師の働きを7年間務めさせていただきました。まさに、この手紙の言葉が、神様の恵みであり、私自信を造り上げてくださいました。

るうてるホームでは毎日礼拝があります。私もいずれはその機会が与えられると思います。その時に、私は神様の御心をるうてるホームの方々にお伝えし、神様の恵みを与えられればと願っています。そして、そのみ言葉を通して皆さまお一人おひとりが、新しく造り上げられるように誠実にみ言葉

を取り次ぐ職務を果たしていければと願っています。

るうてるホームの基である神のみ言葉に立って、これからも歩いていくことができるように共に働き、共に生き、共に祈りつつ関わらせていただければと考えています。

また、後援会の皆さまにおかれましても、この働きを覚え、お祈りとお支えをいただいていますことを感謝いたします。ご一緒に力を尽くし、祈りあう時が与えられていることは真に幸せなことです。どうぞこれからもお支えと篤いお祈りをお願いいたします。皆さまの上に神の恵みが豊かにありますように。

### 「第三者評価をうけて」

これまで培ってきた自分達のサービスを見直す機会として、職員全体で取り組んでいくことが必要との認識を持ってこの度福祉サービス第三者評価事業に取組みました。

正規職員を構成メンバーとして、プロジェクトチームを立ち上げ、目標として、「第三者の基準で評価を受けることで、強みや弱みを知り、サービス向上を目指す。全職員での取組とし、サービスの要不要を見極める機会とします。」としました。

また、この取組により職員の得手不得手や新しい一面をみることもできました。例えば、組織運営項目を何度も質問して確認してくれる職員がいたり、書類の保存場所を聞けば、答えてくれる職員がいたり、文章を作る能力が高い職員が他の職員をリードしたりと、関わりの中で気づけることがことのほか多く、評価を受けること以外にも貴重な経験となりました。

ご利用者へのアンケートでは、半数の方がご回答くださいました。総合的な満足度

通所事業部長 杉本 匡子  
の質問では、9割の方が満足と回答くださり、コメントも心温まるものが多く、これも私たちの自信となりました。

第三者評価当日には、事業所の雰囲気を見ていただく中で、みなさん明るくて雰囲気がよい、職員が定着しているので技術のレベルが高い、アンケートでも満足度が高いことがわかった等のコメントをいただくことができました。日常サービスについては、十分にされており、勉強会等も実施し、良く取り組んでいるとの評価をいただきました。対して、事業計画をご利用者に周知していくこと、マニュアル類の管理、権利擁護の体制整備等の課題を知ることができました。

今回職員全員で取り組めたことは大きな成果でした。プロジェクトでは、取り組みを通じて、課題の共有、チームワークの向上につながりました。この評価を元にサービス向上の指標にし、全職員で確認を行い課題に優先順位をつけて実践していきます。

